

大学倶楽部・上智大

駅いまむかし JR東京メトロ・四ツ谷駅 キャンパスと1世紀

2017年8月25日

Texts by 上智大



現在の四ツ谷駅は駅ビル「アトレ」と一体化している（左端）。周囲は再開発工事が進み、かつて目を引いた上智大学の校舎（中央）も埋もれたように見える

都心部でありながら、ゆったりとした空気が漂う。JRと東京メトロの計4路線が交差する四ツ谷駅。掘割と地下を走る線路をまたいで広がる街にはオフィスと学校が混在する。駅前に、2013年に創立100周年を迎えた上智大学がある。文学部新聞学科の鈴木雄雅教授（64）は、学生時代から足かけ40年以上、この街に通っている。1976年4月に撮影された旧JR駅舎の写真に「ああ、この『みどりの窓口』で切符を買いましたね」と懐かしそうに見入った。



新宿区側から撮影したJR四ツ谷駅の旧駅舎。後方に上智大学の校舎や、聖イグナチオ教会などが見える（1976年撮影）

朝は駅から勤め先へ急ぐ人波で歩道が埋まり、お昼時は飲食店に向かう人々が行き交う。登下校時には、制服姿の子どもがはしゃぎ合う。

多くの要人が訪れる迎賓館やホテルニューオータニも近い。93年、皇太子ご夫妻の結婚パレードが駅前を通った。鈴木さんは「ニュースになる出来事を身近に感じられるのは、学生にとって恵まれた環境」と立地のよさを感じている。

駅舎は91年に建て替えられた。駅ビル「アトレ」の1号店はそれに先立つ90年にオープン。再開発が進む陰で、姿を消した飲食店やパチンコ店もある。「僕が入学する前からあった喫茶店も、ビルの取り壊しで閉店してしまった」と鈴木さん。

写真には14階建ての大学校舎も見える。モダニズム建築家、アントニン・レーモンドの設計で69年に完成した。鈴木さんの研究室は、この校舎内にある。隣接する聖イグナチオ教会は99年に現在の姿となった。

大学の正門前に線路の掘割を見渡せる遊歩道がある。同大の卒業生が植えたという桜並木は駅舎とともに、絶え間なく移ろう街と人々を見守っている。【五味香織】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.